資料1

第４次産業振興プラン骨子案へのご意見と市の考えについて

委員名	ご意見（要約）	市の考え
風間委員	第４次プランの骨子案における観光の施策について、インバウンド客やコンベンションの誘致だけでなく、観光消費や交流人口の拡大に向けた具体的な取組が分かるよう、表現を整理する必要がある。	施策「静岡市ならではの魅力を堪能できる食や体験などを充実させることで観光消費額を増加させます。」にて観光消費に触れていると認識しています。交流人口の拡大については、４次総では「観光政策の目的は交流拡大のため」という認識でしたが、一人当たりの観光消費額や外国人旅行客数が少ない状況にあり、観光振興による地域経済活性化の視点で５次総策定時に政策・施策の見直しを行っています。このため、政策・施策に交流人口の拡大に向けた表現は出てきません。
八木委員	挑戦意欲のある若者ほど地域の外へ出ていってしまう現状がある。若者が地元に戻りたい、地元で挑戦したいと思えるよう、挑戦できる仕事、成長できる企業、相談できる環境を地域の中で見える化する必要がある。	若者の地元定着には、魅力的な企業の集積と、挑戦や成長が期待できる就労環境が重要だと認識しています。本市では、デジタル関連企業の誘致やスタートアップ支援、コ・クリエーションスペースの運営、学生と企業による課題解決型ワークショップ等に取り組んでおり、これらの見える化を進め、若者の認知や参加を促進していきます。
伊藤委員	成果目標「働きやすいまちだと思う人の割合」は、継続的な動向を把握する指標としての意義がある一方、働きやすさの具体的な中身が見えにくい。指標の内訳や補助的な把握方法を工夫する必要がある。	この成果目標は市民意識調査アンケートの回答ですが、働きやすさは、委員のご指摘のとおり、人それぞれであるため、あえて具体的に特定せずにお訊きしています。一方、働きやすさを向上するための取組は、多様な市民の皆様のニーズに応じて行う必要があると考えていることから、属性別の分析や企業・就業者の声を補足的に把握し、指標の背景にある実態がより明確に伝わるよう工夫します。